



冬木 智子  
冬木学園理事長 畿央大学学長

人の命に向き合える人を育てたい

聞くところによれば、90歳以上で現職の理事長をしておられる方は全国に数名いらっしゃるようですが、女性は私をいれて2人だとか。自然体で生きてきて、今日までこのような仕事をさせて頂いていることを大変ありがたく思っております。

自宅の教室から始まり、高等学校、短期大学、幼稚園、そして大学を設置してまいりました。その出発点は、幼い時の「憧れ」だったように思います。

3人の教え子が訪れ、人生が変わる

私は奈良県の農家に生まれ、平和な田園地帯で育ちました。幼い頃はよく畦道に座って、田畑で働く人を眺めました。夕方になり、空がだんだんと夕焼け色に染まり、やがて二上山のきれいな山肌の日がとっぴりと沈んでいく。この世のものとは思えぬ美しい光景を目の当たりにして、私は子ども心にも「いつか美しい国に行ってみよう」と思うようになりました。

そうした「憧れ」を抱き続け、小学校に上がった時、私が思い描いた「美しい国」とは「学校」だということに気がつきました。私は学校が大好きでした。知らないことを知ることを喜びを日々感じました。小学校は皆勤、女学校も皆勤でした。その後、京都府立女子専門学校に進み、大好きだった家政を学びました。

卒業すると、母校である桜井高等女学校の恩師から母校で教えてほしいと請われ、教師になりました。縫製やデザインを教える家政科教師として、またクラス担任として充実した3年間を過ごし、結婚を機に退職。「良妻賢母」を校訓とする女学校で学び、教えてきた私に、いよいよそれを実践する時が訪れたわけです。

ところが、人生とはわからないもの。2カ月後に教え子が3人訪ねてきて、運命が変わりました。「何でもいい、何か教えてほしい」というのです。その熱意を受け止め、私は洋裁を教えることにしました。1946（昭和21）年のことです。あり合わせの衣服の更生から始めた冬木文化服装学院という名の洋裁教室は、ファッ

ション界隆盛の波にも乗り、生徒が年々増えていきました。自宅だけでは収まらなくなり、土地を買い、ヨーロッパ風デザインを取り入れた校舎を51年に新築しました。

高校、短大、大学を創り、「憧れ」を実現

戦後の空気が徐々に変わり、家庭の主婦をするだけでは女性にとって物足りない時代になってきたように感じた私は、女性が資格を取得できる学校を、すなわち高等学校をつくりたいと考え始めました。大それた考えでしたが、やがて援軍が現れました。市が学校用地を紹介してくれたのです。見に行くと、鳥見山を仰ぎ、大和平野を見下ろす美しいロケーションにひとめ惚れ。ここでなら理想の教育ができると確信し、その「憧れ」に向かってすぐ準備に取りかかりました。そうして64年、桜井女子高等学校を開校。すると今度は、卒業生のための学校が必要になります。開通したばかりの東海道新幹線で文部省に通い詰めて66年、桜井女子短期大学の開学に至りました。

現在の畿央大学の開学は2003年。「畿」とは、古より大和・山城・和泉・河内・摂津の五国を指し、「近畿」「畿内」の語源となってきました。畿央大学は、その地域のまさしく中央部に位置しています。

本学は、人々の健康に寄与することを目指した大学として、健康科学部に理学療法、健康栄養、人間環境デザインの3分野の内容をもってスタートしました。健康問題への関心が全国的に高まるとともに、リハビリテーションに対する需要が急速に伸びた時期でした。当時は理学療法士の養成機関はほとんどが専門学校だったため、本学の開学は非常にインパクトがあったようです。優秀な受験生が数多く集まるなど、社会的な注目を浴びました。07年には大学院と研究所も開設。08年には看護医療学科を健康科学部に設置し、4学科体制となったことで、学科の枠を超えたチーム医療教育がいつそう充実していくことを期待しております。

一方で、命に向き合う仕事として、教育に携わる人も育てたいと考えました。そうして06年に教育学部を開設。小学校教諭や幼稚園教諭を養成しています。

学校経営に大切なのは「心」

学園がここまで発展することができたのは、建学の精神に尽きると考えています。64年に学校法人冬木学園を設立するにあたり、一人の人間として、教育者としての生き様を全てかけた夢と理想を高く掲げたいと考えました。そして、「徳をのぼす・知をみがく・美をつくる」という建学の精神をまとめました。常にこの精神に立ち返り、具現化に努めてきたからこそ、今日があるのだと思います。

経営で大切なのは、やはり「心」ではないでしょうか。人相手の仕事ですから、人の心を知るところから始めるべきでしょう。相手を理解し、こちらを理解してもらおう。こちらの考えや人格を周囲の人達に知ってもらえるようになれば、協力者が必ず現れるのではないのでしょうか。大学の理事長さんと会合をもつと、「学内に反発する人がいて、改革が進まない」と嘆く方がいますが、私には全く縁のない話です。本学はみな協力的で、助け合う空気が漲っています。

畿央大学は学生数が2000人弱の大学であるために、「規模を大きくしないのですか？」と訊かれることがあります。「無理をしない」というのが私の信条です。無理をすると、今まで築き上げたものが崩れることにもなりかねない。それに、もう無理をする時代ではないのではないのでしょうか。自然体で進んでいき、また「憧れ」が胸を突き上げてきたら、それを実現する機会も自然に訪れるのではないかと考えています。

本学は来年10周年を迎えます。現在も高い評価を頂き大変ありがたく思っていますが、これまで以上に社会に貢献できる人材を育てることが私の大きな夢であり、責任であると改めて自覚しております。



ふゆき・ともこ氏

- 1922年生まれ
- 1942年 京都府立女子専門学校(現京都府立大学)卒業
- 1943年 奈良県立桜井高等学校教諭
- 1946年 冬木文化服装学院開設 院長に就任
- 1952年 準学校法人冬木学園理事長に就任
- 1964年 学校法人冬木学園理事長に就任 現在に至る
- 1964年 桜井女子高等学校開設 校長に就任
- 1966年 桜井女子短期大学開学 学長に就任
- 1979年 桜井女子短期大学付属幼稚園開設 園長に就任 現在に至る
- 2003年 畿央大学開設 学長に就任 現在に至る

日本私立短期大学協会理事、文部省大学設置審議会委員、奈良県人事委員会などを歴任  
文部大臣表彰、奈良県知事表彰、藍綬褒章、勲三等瑞宝章など受賞多数